

昭和63年8月20日

同窓会会報

第6号(1)

同窓会会報

福岡大学医学部同窓会

第6号



西別館 精神神経科病棟

第7回福岡大学医学部同窓会総会を 終わって

新たな同窓会活動に向かっての展望

会長 山崎 節（1回生）

第7回福岡大学医学部同窓会総会を去る7月2日無事に開催する事ができました。今年は久し振りに好天に恵まれたこともあり、約150名の会員の皆さんが出席してくれました。

今回の総会は同窓会創設以来初めての会則の変更や第4期の同窓会役員人事などが予定されていましたので、できるだけ多くの会員の皆さんに出席してもらいたいと考え、昨年の暮れより特別講演や卒業年度別の懇親会などを検討して参りました。結局、特別講演は実現できませんでしたが、年度別の会の開催で総会出席者も増え総会を成功裏に終了することができました。総会の世話をしていただいた8回生の植木君、松岡君を始め各卒業年度の世話人の方たちの御苦労に感謝したいと思います。

福大医学部同窓会も7年目に入り、会員も1300名を数えるようになっていますが、運営を円滑に行うには従来の理事会と役員会ではなかなか難しい状態でした。今回の人事では理事を9回生まで拡大し、人数を大幅に増やす事で理事会を強化充実させました。

一昨年より旧図書館跡のゼミナール室に同窓会事務室を設置していますが、名

簿管理用のパソコンなどはあるものの、電話もなく、会議を行うには狭くて実際余り利用されていませんでした。この度パートタイムではありますが、元医学部事務次長の池田静夫さんが「福大医学部同窓会事務局」を手伝ってくれることになりました。早速専用電話（外線専用）を設置して色々な問い合わせや連絡の窓口を作る予定です。

ようやく設定した終身会費は、現在順調に集まりつつあります。終身会費が決まった上で、学生からの前受け会費の徵収も現実的に可能な情況になりました。

昨年秋より始めた三井生命の代理店も5月までの半年で約150万円ほどの収入になっています。

同窓会名簿は住所変更も多く、早い時期に追補版か改訂版を出すつもりです。

来年の総会は会則の変更に従って、後日理事会で決定致しますが、会員の皆さんに喜んで出席してもらえるような総会を今後も考えて行きたいと思っていますので、何かアイディアがありましたら、遠慮なくお申し出下さい。そして又今後共同窓会活動へのご協力をお願いしたいと思います。

〈福岡大学医学部同窓会第4期役員名簿〉

会長	山崎 節	1回生	1内科	開業
副会長	吉田 隆	2回生	泌尿器科	三信会原病院
	小金丸 史 隆	3回生	放射線科	
理事	城戸 正 喜	1回生	整形外科	筑紫病院
	朔 啓二郎	1回生	2内科	
	江下 明 彦	2回生	健康管理科	開業
	飯田 博 幸	3回生	整形外科	
	仁位 隆 信	4回生	2内科	
	木下 昭 生	5回生	2内科	
	宮本 康嗣	6回生	1内科	薬理
	井上 隆 則	7回生	精神科	進藤病院
	松岡 弘 文	8回生	泌尿器科	
	坂本 倫 子	9回生	精神科	

評議員（理事を含む）

城戸 正 喜	1回生	整形外科	筑紫病院
高良 由貴夫	1回生	精神科	開業
朔 啓二郎	1回生	2内科	
山崎 節	1回生	1内科	開業
江下 明 彦	2回生	健康管理科	開業
吉田 隆	2回生	泌尿器科	三信会原病院
小金丸 史 隆	3回生	放射線科	
田邊 庸 一	3回生	2内科	田辺医院（開業）
嘉数 徹	4回生	1外科	
田代 研 児	4回生	病理	国立福岡中央病院
仁位 隆 信	4回生	2内科	
前田 純 雄	5回生	健康管理科	
木下 昭 生	5回生	2内科	
占部 嘉 男	5回生	2内科	

緒 方 周	6回生	精神科	
宮 本 康 瞾	6回生	1内科	薬理
上 村 精一郎	6回生	1内科	筑紫病院
井 上 隆 則	7回生	精神科	進藤病院
伊 藤 博 巳	7回生	泌尿器科	
増 田 雄 一	7回生	2外科	1病理
松 岡 弘 文	8回生	泌尿器科	
植 木 敏 晴	8回生	1内科	
野 元 淳 子	9回生	2内科	
加 藤 由 起	9回生	眼科	唐津日赤
坂 本 優 子	9回生	精神科	
武 末 淳	10回生	耳鼻科	
松 前 知 治	10回生	2内科	
鬼 塚 美由樹	11回生	眼科	
武 末 佳 子	11回生	眼科	
岡 芳 彦	11回生	1内科	
監 事 田 口 純 一	1回生	2外科	三萩野病院

第7回福岡大学医学部同窓会総会を顧みて

昭和63年7月2日土曜日に西日本新聞会館16階の福岡国際ホールにて昭和63年度の同窓会総会および総会終了後、各学年別の同窓会が天神周辺でおこなわれました。数年ぶりに行われたクラスもあつ

た様です。

そこで、印象記を依頼して御返事頂いた幹事の先生方の感想を報告するとともに、来年度にたいしての抱負も述べていただきました。

第7回福岡大学医学部同窓会印象記

第4回生幹事 仁位 隆信(第2内科)

今回の同窓会では、総会開催にあわせて、我々四期生の同窓会も行われた。卒後七年たって、初めての集いであった。同窓会の開始予定時刻には、出席予定者の半分程の集まりしかなく、少々、寂しい気がしたが、何時の間にか増え、遠くは鹿児島より、計20数名の出席があり、中には毎年やろうという嬉しい声もあがり盛り上がった。

元来、ものぐさで、面倒ぐさがりやの自分も参加したが、出席してみると七年

ぶりという事も手伝って、感慨深いものがあった。容姿こそ、皆、変わっていなかつたが、なかには既に開業している先生もいて、月日の流れを感じた。

一度、各科に入局してしまうと、各科単位で行動する事が多くなり、学外に出ている同級生はもちろん、学内で顔を合わせる同級生とも、ゆっくり話す時間がないのが実情である。一年に一回、こういう機会があっても良いのではと実感した今回の同窓会であった。

第5回生幹事代表 木下昭生(第2内科)

3年前、総会の幹事をさせて頂いて以来、毎年、総会の終了時に会場を見渡すと、立食パーティのきれいに飾ってある料理が2つのテーブル位全く手をつけず

に残っていた。それを見るにつけ、「今年もまた…」と落胆にちかい面もちになっていたが、今年は、会の半ばにして料理のほとんどがなくなった。また、来賓の

教授の御挨拶で、“総会出席者が少ないことが残念である”という意味の一言が常に含まれていたが、今年は、“いつもに比べ、多数の出席者に驚いている”との挨拶を聞くことができた。例年、70~80人しか集まらず貧乏の印象をまぬがれなかった総会で、今年はこのように倍近い約150名の同窓生を集める事ができたのは、天候に恵まれた事もあるが、同窓会の後に各学年会を開くことで従来の各診療科別という縦のつながりだけでなく、横のつながりからも総会への参加を呼びかけようという会長を始めとする同窓会役員の努力が功を奏したためであろう。

しかし、第5回生に限って話をすると、総会出席者12名、二次会（コーケンプラザホテル、ビスタリオ）出席者わずか8

名と散々な結果であった。5回生への総会・二次会の連絡が他の学年より2週間ほど遅れた幹事の不手際もその大きな一因であるが、学生時代よりもう一つ連帯感に乏しかった5回生特有の気質も原因しているように思えてならない。今回の幹事の不手際をお詫びするとともに、今後同様の会を開くときには多数の5回生の顔を見れるように切に希望する。

全体的にみると総会は、今回一応成功したといえるであろう。しかし、来年も今年と同様の企画でうまくいくとは思えない。来年は、また新しい企画でのチャレンジが必要であろうし、そのためには一人でも多くの同窓生の自覚と協力が必要であると思われる。

第8回生幹事代表 松岡弘文（泌尿器科）

今回の同窓会総会で総会監事と第8回学年会幹事を仰せつかった。全体の印象記についてはもう一人の監事である植木君が書いている筈であるし、私について言えば実際のところ懇親会終了まで受付で会費を集めていたし、その多額の会費を持っていたため学年会も早々に退散し印象記を書くには甚だ不適格であるが、感想なりを少し書いてみたいと思う。

総会参加者154人……この数は当初目標とした400人には遠く及ばないものの、昨年の数からは大幅な増員となり一応の安堵感を得た。しかし充分な準備ができ

なかつたことを考えるとまだまだ増員できる余地があったのではないかと悔やまれ、一概に喜べない数字であった。

増員できた要因を冷静に分析してみると、これはひとえに各学年幹事の方の力であり、総会後に各学年会がsetされたからばかりでなく、案内そのものが親しみのあるそれぞれの学年幹事から発送されたことによると思われる。

第8回生についてみれば、総会20人、学年会27人と他学年より幾分多かったものの、当学年の卒業生が多いことを考えると寂しい限りで、力不足を痛感させら

れた。

ところで、一つの集団・団体をみた場合、その中で、非常に積極的なgroup、消極的・非協力的なgroup、そして理解はあるが特に積極的ではないgroupの3つに分けられ、最後者が数としては大多数を占めると思われる。同窓会においても事情は同じで、このgroupの方々にいかに多く出席して頂くかに監事の仕事の大部分があるわけであるが、しかし我々は選挙に於ける浮動票集めの如き仕事をしているわけではなく、もともと全員が会員である中に呼びかけているのであって、年一回

の総会を行うに当たってもっとresponseがあつてしかるべきであると思う。

同総会はそもそも会員どうしの結束あるいは親睦を深めるためのものであるが会員が各方面で積極的に仕事をする場合にも、我々のBaseである同窓会が活発で積極的な団体であればある程、推進力がつくし、やりやすいはずである。結局会員一人一人に目に見えない恩恵があるはずである。そのような団体にするには会員各々が積極的に盛り立てて行こうとする姿勢が必要であると思う。

第9回生幹事 坂本倫子（精神科）

私は今年同窓会の役員になって、初めて総会に参加しました。

なつかしい顔ぶれがそろい、同窓会つていよいもんだなあと思いました。

今後、いかにして参加者を増やすかが

問題ですが、一度参加して頂ければ、そのよさはおわかり頂けると思います。

今年参加されなかった方々、来年は是非、元気なお顔をみせて下さい。

7回生幹事 伊東博己（泌尿器科）

今年の同窓会は例年にはない盛会となり幹事の先生方は本当にご苦労様でした。我々の学年は昨年お世話をさせて頂きましたが、雨にたたられたとはいえ、出席者が今年の約半分という寂しさで、その時は同窓会の今後に不安を持ったのですが、昨年は我々の力の至らなさ故だったとわかり、安心しました反省させられまし

た。我々7回生は今年で卒業5年目を迎える、院内においては助手となるもの、院外では一人部長として出張するもの、また海外留学を予定するものなどの話も聞かれ、いよいよ同窓生の中でも中堅になって来た感があります。しかし5年目と言えば、医者としてはまだまだヒヨコでありながら、一人前になったと錯覚し始

める時期のようですから、そういう事のないよう自重しなければなりません。さて、7回生としての反省点はと言うと、やはり集まりの悪さが第一に挙げられます。同窓会の2次会として開いた学年会は、出席予定者32名に対し出席20名と寂しいものとなりました。急用の為の欠席は仕方ありませんが、例年ながら他施設からの参加と比較して、大学に在籍している者の無関心さが残念です。今はまだ学内や関連施設で同級生と会う機会が多い事や、友人の結婚式で会いたい連中と会ってしまうからだと思いますが、もう

少し関心を持ってもらいたいものです。また、同窓会に出席した後、気の合う仲間で集まった人達やクラブ単位で集まつた人達もいるようですから、これは7回生に限らず、同窓会の2次会の在り方を再検討する必要がありそうです。最後にお願いですが、女性にもっと出席していただきたいと思います。女性の出席率が上がれば必ず全体の出席率も上がると信じていますので、育児で手が離せない人は今は仕方ありませんが、子供の手を引いて来れるようになったら、ぜひ参加して下さい。

年会費あるいは終身会費の 納入についてのお願い！

ご承知のとおり、同窓会の活動は、皆様方より寄せられた净財を唯一の財源として運営されております。

どうか、我々の主旨を理解して頂き、同窓会の存在と活動のため御協力下さい。過日の理事会で、会費は年会費5,000円、あるいは終身会費を納

入される方は**20,000円**となりました。

尚、振込先は、本報末ページに記載しています。

皆様方の善意を切に期待しております。追って、すでに納入して頂いた方々には重複の点ご容赦くださいようお願いします。

＜同窓生たより＞

藤井病院院長 井上 隆人（第2回生・昭54年卒）

開業して2年、経ちました。

学生時代から開業は、ひとつの夢でした。何んといつても一家の主、楽しい毎日であります。中洲から足も遠ざかり、いつしかシンデレラボーイになったこの頃。30才を越えた途端に体もついて行けず、12時を過ぎたらつい明日の診察を考え、そそくさと自宅に帰る様になりました。

開業して一番頼りになるのは自分の健康であり、今までお世話になった恩師、先輩、同級生、後輩達であります。当直や日勤の手伝を頼む時、僕はつくづくクラブをして良かったと、思います。

16年前に、福大空手部、軟式野球部を創設して以来、素晴らしい後輩達を得、椎君、田丸君、梶原君は、日曜日に大学の合い間をぬって、せっせと八木山を越え診察に来てくれます。又、恩師の通称為五郎先生（元第1外科助教授為末紀元先生）は、僕の病院で行う全ての手術に対し、開業して何かあったら大変だと仰せられ、別府から、わざわざ足を運んで下さいます。又、同級生の御鍵先生（第1外科）も、学位修得後、毎日常勤として1時間の早朝ドライブを楽しみながら、病院での診察に当つて下さいます。又、同級生の池尻先生（第2内科）も、開業してあるにも拘らず毎週患者を診察してくれます。

本当に自分の財産は友達であり、又そ

ういう友達を持たなければ世の中を渡つていけないと痛切に、感じています。

風の便に聞くと、学生達はクラブ活動もままならぬ事態だと聞いています。しつこく言う様ですが、大学を出た僕が一番頼りになるのは福大医学部なのです。

僕は、同窓会に出席してこんなにも仲間達に恵まれて居ると自分に言いきかせ明日に向って頑張っております。

今思えば、二期生として入学し、代議員になり、学生名簿作成、七隈祭での模擬店出店、医学部ソフトボール大会開催、空手部創設、軟式野球部創設して曾田教授（空手部顧問）、坂本教授（軟式野球部顧問）との素晴らしい出逢いも、又僕のすばらしい財産です。

更に、第1回幹部研修会（千石荘）での議員及び、福大医学部国家試験対策委員長など医学部での財産が今の自分の支柱に、なっています。浪人時代からの先輩である小金丸さんのお陰で、病院の宣伝も同窓会名簿の第1ページに、大きく載せてもらいました。

最後に、僕の病院の紹介をします。筑豊の炭鉱町だった稻築という所にあります。入院患者80名、外来患者140名、従業員70名、開業の時に決めた院訓『笑顔、真心、思いやり』を、玄関に掲げ外科、内科、整形外科を主体にし眼科、小児科も診ています。

僕の夢であった従業員だけの音楽バンド(井上バンド)は、日本一と自負しており病院周辺での音楽活動を行っています。

これからも、従業員を初めとして、諸先生方の協力を得て地域医療の充実を目指に、筑豊の星(井上隆人)になります。

〒820-02 福岡県嘉穂郡稻築町鴨生222

藤井病院 TEL 0948-42-0080

〈第82回医師国家試験合格者及び研修予定病院〉

医師国家試験に108人が合格

第82回医師国家試験(4月2・3の両日、全国12会場で実施)に、本学から145人が受験し、108人が合格した。合格率は74.5%。全国の平均合格率は81.2%(国立86.8%、公立88.5%、私立73.6%)。

本学の合格状況は次のとおり

荒木 敬一 (内科学第二)	
有水 淳 (整形外科学)	
栗津 諭 (長崎大2外科)	
石藏 礼二 (九州大精神科)	
磯部 尚志 (京都大2外科)	
今井 一彦 (整形外科学)	
今村 明秀 (耳鼻咽喉科学)	
大城 真也 (脳神経外科学)	
岡 芳彦 (内科学第一)	
岡田 茂 (長崎大皮膚科)	
岡村 一幸 (鹿児島大整形)	
小笠原 長正 (長崎大3内科)	
鬼塚 美由樹 (眼科学)	
小野 隆宏 (大分医大2内科)	
小野 民子 (佐賀医大小兒科)	
小野 美雪 (内科学第二)	
鐘ヶ江 重宏 (泌尿器科学)	
金田 宏和 (奈良県立医大耳鼻科)	
亀甲 真弘 (鹿児島大1内科)	
河瀬 晴彦 (岐阜大1内科)	

新卒既卒合計

受験者数	108人	37人	145人
合格者数	87人	21人	108人

尚、合格者108名のうち、福岡大学病院で研修予定50名、福岡大学筑紫病院で研修予定8名の計58名が、福岡大学で研修する。

河野 弘志 (久留米大2内科)	
喜々津 恭子	
木本伸子 (内科学第二)	
金城 諸 (琉球大)	
國本泰男 (精神医学)	
久保貴子 (鹿児島大1内科)	
倉堀 純 (兵庫医大)	
四宮義浩 (外科学第二)	
末村恵子 (広島大1内科)	
杉原基弘 (広島大1内科)	
周田千代子 (麻酔科学)	
早田哲郎 (内科学第一)	
竹内俊夫 (佐賀医大皮膚科)	
竹尾浩真 (外科学第二)	
武末佳子 (眼科学)	
武田誠司 (内科学第二)	
竹村聰 (筑紫病院内科)	
多胡典郎 (整形外科学)	
田所久徳 (香川医大1内科)	
田中彰一 (九州大1内科)	

富 松 英 郎 (産業医大3内科)	松 井 孝 明 (眼科学)
中 村 浩 (外科学第一)	安 永 雅 克 (整形外科学)
中 村 安 俊 (鹿児島市立病院産婦人科)	山 口 剛 司 (鹿児島大1内科)
名 越 敏 郎 (宮崎医大1内科)	山 中 孝 彦 (外科学第二)
西 田 富 昭 (内科学第二)	渡 辺 太 郎 (大阪大微生物研究所)
橋 口 恭 博 (熊本大代謝内科)	伊 藤 晃 (小兒科学)
畠 山 定 宗 (筑紫病院内科)	小長谷 一 郎 (東京大学3外科)
平 塚 俊 樹 (内科学第二)	佐々木 裕 光 (精神医学)
藤 岡 靖 也 (熊本大3内科)	濱 崎 宏 明 (長崎大2外科)
藤 原 隆 (長崎大2外科)	久 富 孝 敏 (心臓外科学)
堀 川 孝二郎 (外科学第一)	矢 野 一 朗 (皮膚科学)
益 崎 隆 雄 (外科学第二)	中 村 宏 (筑紫病院整形)
松 尾 勝 一 (外科学第一)	福 迫 貴 弘 (長崎大精神科)
三 浦 伸一郎 (内科学第二)	近 藤 淳
右 田 良 克 (九州大3内科)	中 村 守 秀 (脳神経外科学)
南 昌 江 (東京女子医大内科)	林 伸 昭 (筑紫病院内科)
本 村 明 (筑紫病院内科)	原 野 和 芳 (一心病院東京)
森 俊 介 (九州大産婦人科)	井 回 宏 (内科学第一)
森 宜 陽 (長崎大2外科)	内 田 俊 毅 (内科学第一)
山 下 喜 史 (広島大1内科)	比 嘉 頴 秀 (整形外科学)
山 田 隆 司 (心臓外科学)	山 戸 康 司 (小兒科学)
山 田 美 加 (筑紫病院内科)	樋 口 史 彦 (筑紫病院内科)
大 和 浩 (内科学第二)	栗 屋 信 仁 (山口大内科)
吉 永 康 照 (外科学第二)	陳 輝 璋 (整形外科学)
脇 山 哲 史 (内科学第二)	宮 之 原 正 和 (内科学第一)
赤 松 稔 (大分医大1外科)	片 口 尚 志
太 田 雄 三 (長崎大整形)	赤 城 哲哉 (熊本日赤)
古 賀 賢 二 (内科学第二)	宇 都 宮 至 (久留米大1内科)
後 藤 三 晴 (筑紫病院整形)	作 良 彦 (宮崎医大外科)
田 中 英 樹 (内科学第二)	桜 井 景 紀 (鹿児島市立病院産婦人科)
原 田 七 生 (熊本大内科)	高 橋 宏 (心臓外科学)
東 川 昌 紀 (小兒科学)	古 澄 達 人
平 田 雅 昭 (小兒科学)	戸 原 震 一 (内科学第二)
北 城 守 文 (泌尿器科学)	豊 島 学 (鹿児島大)

〈役員会、理事会だより〉

昭和63年4月12日 於医学部3階会議室

協議事項ならびに報告事項

1. 昭和63年度総会について
2. 規約改正
3. 人事について

昭和63年5月26日 於医学部3階会議室

協議事項ならびに報告事項

1. 昭和63年度総会について
2. 各学年同総会について

昭和63年6月14日 於医学部3階会議室

協議事項ならびに報告事項

1. 昭和63年度同窓会総会について

昭和63年6月25日 役員会 於てら岡

協議事項ならびに報告事項

1. 同窓会会則の改正の件
2. 人事の件
3. 昭和62年度収支決算
4. 同窓会名義の預金運用について
5. 事務委託について
6. 名簿改正について

昭和62年度福岡大学医学部同窓会会計報告

収入の部内訳

昭和62年度分会費	5,000円 × 153人 =	7 6 5, 0 0 0 円
昭和62年度卒入会費	15,000円 × 84人 =	1, 2 6 0, 0 0 0 円
終身会費	20,000円 × 156人 =	3, 1 2 0, 0 0 0 円
同窓会名簿広告代	50,000円 × 13 =	6 5 0, 0 0 0 円
同 上	40,000円 × 1 =	4 0, 0 0 0 円
同 上	30,000円 × 37 =	1, 1 1 0, 0 0 0 円
同 上	20,000円 × 2 =	4 0, 0 0 0 円
協賛費	10,000円 × 2 =	2 0, 0 0 0 円
銀行利息		2 1, 0 2 2 円
三井生命保険より		6 9 4, 2 7 0 円
その他		1 0, 7 8 0 円
収入合計		7, 7 3 1, 0 7 2 円

支出の部内訳

昭和62年卒業生記念品代	3 6 4, 4 0 0 円
学生アルバイト(名簿作成)	1 6 0, 0 0 0 円
通信費	3 9 9, 0 0 5 円
昭和62年総会経費(広告、名札、ポスター、景品)	2 5 5, 2 0 0 円
会報、同窓会名簿印刷	2, 1 1 5, 8 0 0 円
同窓会室用キャビネット	5 9, 0 0 0 円
役員会費	4 9, 0 5 2 円
香典、花代	3 5, 0 0 0 円
その他	3, 2 0 2 円
支出合計	3, 4 4 0, 6 5 9 円

昭和62年度決算報告

昭和62年度総収入	7, 7 3 1, 0 7 2 円
昭和62年度総支出	— 3, 4 4 0, 6 5 9 円
昭和62年度差引残高	4, 2 9 0, 4 1 3 円
昭和61年度より繰越額	+ 5, 8 7 1, 1 3 3 円
昭和63年度へ繰越総額	1 0, 1 6 1, 5 4 6 円

以上報告致します。

会計 小金丸 史 隆 印
監事 田中 純一 印

【お知らせ】

《会費納入のお願い》

昭和63年度 年会費5,000円あるいは、終身会費20,000円を未納の会員の方は、早急に下記の口座にお振込下さい。

福岡銀行 福岡大学病院出張所
普通預金口座 No.18937
福岡大学医学部同窓会 山崎 節

転勤、留学、結婚等で住所、氏名や勤務先を変更される会員の方が多いと思います。ぜひ、同窓会にご一報下さい。会員への通知、名簿作成などに際し消息を追うことは極めて困難なのです。なお、通知用のハガキを綴込んでいます。ご利用下さい。

《昭和63年度版名簿作成のおしらせ》

新規名簿を作成中です。住所、勤務先の変更の方は、綴込のハガキにて御通知下さい。

《編集後記》

今年の同窓会総会は、昭和63年7月2日に行われ、例年になく盛会であった。旧友に会い和やかな一時であった。また、総会にひき続いて行われた各学年別の同窓会も懐かしい顔にあい日頃の苦労話に花が咲いていたようである。

さて、今年は新役員の改選が行われ、同窓会に対する関心を高めるため委員の数が増やされた。新規役員のもと活発な活動と発展が望まれる。

福岡大学医学部への入局希望者は年々減少しており将来が危ぶまれる。我ら母校を立て直すのは、同窓生しかいないのである。ここらで本気で考える時期かも知れない。そのためにも来年の総会には、多くの出席者が必要である。今年諸処の事情で出席できなかった方は、どうか来年は奮って参加して下さい。

会報もやっと6号です。各地での支部会がありましたら、どうぞ会報へ投稿下さい。

投稿先 〒814-01 福岡市城南区七隈7丁目45番1号

福岡大学医学部同窓会

編集委員 (第3回卒) 小金丸史隆 (放射線科)